

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <宮城県 製麺 >
昨年と違い、関東方面のスーパーの需要が伸びない状況である。一昨年より多めに推移しているものの、昨年のような巣ごもり需要的傾向は、わずかと考えられる。夏の需要期に期待したい。
2. <秋田県 パン >
昨年はコロナ禍による巣ごもり需要のためか、販売は好調であった。今年も大都市圏では緊急事態宣言となっているが、全国的に平常時に戻っている。
3. <群馬県 菓子製造業 >
5月16日から「まん延防止等重点措置」が適用となり客足が止まった。観光地も大型連休明けから客が来なくなり、売上が減少している。
4. <石川県 パン・菓子製造業 >
今年度においても主要都市（東京・大阪）の緊急事態宣言の延長、そして連休後は県内の「まん延防止等重点措置」等により2年連続となる異例の事態、景気は更に落ち込んでいる。
5. <和歌山県 その他の食料品製造業 >
梅干製品の販売は、停滞している（通販は好調）。一方、梅は豊作見込みで、梅干原料が出回りつつある。収穫が始まったが、青梅の価格は豊作の割には、まだ高値である。
6. <鹿児島県 鰹節製造業 >
一段と消費が低迷している。特に鰹節は都会の飲食業の時短営業で使用量が減少している。また、大不漁でインドネシア産の鰹が高値となり、輸入量は昨年同期比の20%に落ち込んだ。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 ニット >
国内縫製営業が主力としている首都圏の百貨店等、大規模店舗における休業・時短要請の影響により売上が激減している。今年度は政府管掌の医療用ガウンの発注もなく苦境に陥っている。
8. <岐阜県 婦人子供服 >
4月同様、昨年対比は170%近く増加しているが、一昨年対比では70%弱しか回復していない。また、アパレルメーカーにとって今年は、マスク特需がないため更に厳しい。
9. <和歌山県 毛皮製衣服製造 >
5月の売上は増加したが、年間売上合計は、低迷した前年と同額維持の状況。原料系の輸入量が減少しているようで、種類によっては調達が難しかったり、価格の値上り情報も届いている。
10. <岡山県 アパレル >
カジュアル関連は、約30%売上増となったが、前々年比 約20%減少。一方、好調を取り戻しつつある高価格ゾーンのジーンズ受注が活況で、人手不足の企業もある。
11. <香川県 縫製 >
昨年はマスクや防護服等でなんとか凌いできたが、今年は全く受注がなく、6月は休業し、雇用調整助成金で持ち堪えようとする企業がある。
12. <愛媛県 繊維染色 >
糸の受渡し数量は3,127梱で先月比の15.5%減少となっている。前年同月比は24.5%の増となっている。まだまだ見通しがたたない状況である。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
昨年同期比で受注量は回復している。輸入材不足から代替材としての需要が増加しているが、既存の顧客対応で手一杯の状態。資源不足に加え働き方改革もあり増産は不可能な状況である。
14. <岩手県 一般製材業 >
外材の入荷量の減少、価格高騰等の影響により、国産材への代替需要が継続しており、特に首都圏から製材品の問合せが多くなっている。
15. <栃木県 建具製造業 >
コロナ禍の影響で生産・販売など振るわない。又、「ウッドショック」と呼ばれているが、木質系資材の不足、高騰が顕著である。軒並み30%以上の値上げ提示がメーカー各社より届いている。

16. <新潟県 製材業 >
先月同様外材の入荷状況が非常に厳しく、材料の入荷の行先については全く先が見えない状況。欠品が続くことで、今年向かう現場が来年になったりと先の状況を見ると少し不安になる。
17. <高知県 一般製材業 >
原木、製品共に不足しており、価格は急激に上昇、特に海外製品は大幅不足で価格上昇の要因となっており、全国的に混乱の様相である。
18. <熊本県 一般製材業 >
木材市場では、市売日毎に原木価格が上昇し、建築用原木が独歩高となっている。人吉球磨地域では、C材、D材の価格の変動は無いが、鹿児島ではC材、D材にも価格の影響が出ている。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
前年の売上が悪かったこともあり、前年同月と比較すると今年の組合員の売上はほぼ100%を超えている。しかし、前々年の数字と比較すると若干マイナスの組合員もいる。
20. <福井県 和紙工業 >
お土産など需要先での回復が見込めず、小間紙などが苦戦。建築関連についても、新設住宅着工戸数の減少等で需要が減退しており、産地全体で厳しい状況が続いている。
21. <岐阜県 紙加工品 >
昨年比受注が20%アップしているが、一昨年比較では10~20%落ち込んでいる。ピザの箱や、宅配向けの箱等の製造でコロナ禍前より忙しい組合員もいるが一部にとどまっている。
22. <大阪府 古紙収集加工業 >
段ボール古紙を除き洋紙系古紙の発生減により売上は減少している、大手洋紙メーカーではCO2削減のため、パルプを増配合し古紙の使用量を抑えている。
23. <島根県 紙製容器製造 >
宿泊関係の需要は低迷しているが、中元対応の商材需要が増加傾向にある。
24. <高知県 機械すき和紙製造業 >
全国的に家庭紙の荷動きが悪い状況が続いている。特に、高知が発祥の地であるポケットティッシュは、最悪の状況。除菌用のウェットティッシュも供給過多のせいか、注文量が減少している。

印刷

25. <宮城県 印刷・同関連業印刷 >
昨年度比では状況は不変であるが、前々年度比では厳しい状況は続いている。この1年間で市場ニーズに上手く対応している事業者の中には、回復基調にあるところもあり、二極化している。
26. <栃木県 印刷業 >
コロナ禍の厳しい状況は続いているが、昨年同時期に比べると受注量も増加しているとの声も多く聞こえてくる。しかし一昨年度の数字には程遠く、予断を許さない状況に変わりはない。
27. <神奈川県 製本 >
例年、仕事の量が落ち着き始める時期であるが、今年は輪をかけて少ない。オリンピック関連の仕事も全くなく、その他夏のイベントも中止・縮小が相次いでおり、更なる冷え込みが予想される。
28. <静岡県 印刷・同関連業 >
官庁の大型入札案件では対前年比で落札見積金額が大幅に下落している。相場額が下落することで当業界は今後も厳しい状況が続くことが予想される。
29. <佐賀県 印刷・同関連業 >
コロナの再拡大による緊急事態宣言や飲食店時短要請などが発令され、県内の人の動きが制限されることによりイベントや総会が縮小。印刷物も大きく影響を受けた。
30. <宮崎県 印刷・同関連業 >
需要が減少しているうえに、価格の見直し、人材確保など課題が多い。生産工程の見直しにしても時間がかかることになり、設備投資もままならない。

化学・ゴム

31. <東京都 ゴム製品製造業 >
組合員企業の中で二極化が進んでいる。売上が前年比で上回っている企業もあれば、減少している企業もあり、温度差がある。減少の原因は自動車半導体関係であり、受注が激減している。
32. <神奈川県 石油製品 >
組合員各社の売上は引き続き厳しい状況であり、全般的に減少している。ある組合員は、「今後の経済活動や職場でのワクチン接種の動向が読めず不安である。」と話していた。

33. <愛知県 高圧ガス >
 主要な需要先である輸送機器向けは企業間格差が大きい、回復基調を示している。但し、展示会、商談会が2年連続中止となっており、商機逸失の影響が大きい。
34. <京都府 プラスチック製品製造業 >
 組合員の業況について多くは不変であるが、好調が1社、不調が3社あるなどまだら模様である。特に、センサーや什器備品部門が悪い。中小企業は依然として厳しいところが多い。
35. <大阪府 石鹼洗剤製造業 >
 衛生関連品の市場拡大は継続している。品目別で見ると好調維持なもの、昨年の反動で減少のものとまちまちであるが、累計では殆どの品目で前年を上回っている。
36. <島根県 プラスチック製品製造業 >
 自動車向け部品の流動が回復し、巣籠り需要向け部品も堅調な受注となっているが、材料の入手性悪化は好転せず、材料価格の高騰も収まっていない。

窯業・土石製品製造業

37. <山形県 コンクリート製品 >
 前月同様、河川関連製品だけが特需傾向にあり、側溝・擁壁等の一般製品需要は減少傾向。新型コロナの影響下、民需の動きも鈍く、需要の先行きが不透明である。
38. <福井県 瓦工業 >
 コロナの影響もあり、住宅業界は落ち込んでいる。ウッドショックによる影響は県内瓦業界にはまだないが、盆明け頃から影響がでることも懸念される。大型物件受注が少ない。
39. <山梨県 骨材・石工品等製造業 >
 例年5月は工事量が少ないが、前年度内の完成工事が遅延し売上は前年比で3%増加した。一昨年との比較では売上は減少、月比でも売上は減少し、景況感の悪化が進んでいる。
40. <三重県 陶磁器 >
 県のまん延防止等重点措置に伴い、来館者数、売上共に減少している。増加傾向であった団体陶芸教室についてもキャンセルが多く発生している状況である。
41. <徳島県 生コンクリート >
 出荷数量は、対前年同月比13%減であった。大型工事の終了とそれに代わる官での新規工事の減少による。公共工事は秋口以降に見込めるものの前年並みの数量確保は厳しいと思われる。
42. <沖縄県 生コンクリート製造業 >
 出荷実績は、対前年比で16.5%減となった。公共工事は、前年比7.8%減となり、主に防衛庁関連工事が減少した。民間工事は、前年比19.7%減となり、分譲マンション・ホテル工事等が減少した。

鉄鋼・金属製造業

43. <北海道 金属製品 >
 製鉄各社は原料高により鋼材価格を1か月半ぶりに値上げし、鋼材の調達を早める動きが出てきている。当組合としては、新造船の受注増で仕事量が確保され、先の見通しが明るくなってきた。
44. <青森県 鉄鋼製造業 >
 工場平均稼働率と手持工事量は引続き低調ながら横ばいで推移している。見積依頼物件も減少傾向であるものの、東北の引合いが徐々に動いており、今後の物件数に期待したい。
45. <富山県 めっき加工業 >
 電子部品関連は、新型コロナウイルスの影響は少ない。前年度対比+10%で、スマートフォン関連については、好調を継続し、年末まで忙しさが続く見込みである。
46. <滋賀県 機械部分品 >
 材料の値上げが一部に見られ、3~4月に掛け、販売価格を見直した会社があった。バルブ全般的に生産量の低下が続いている。
47. <鳥取県 鉄骨加工品製造業 >
 今年に入ってから鋼材の単価上昇は大きなインパクトになっている。各社の収益状況はこれから悪くなる一途と予想される。
48. <鹿児島県 機械金属工業 >
 少しずつ動きが出てきたが、県内中小物件の引き合いは少なく、地域間で仕事量や稼働率に格差が生じている。鋼材の値上がりに価格の下落と不安材料が尽きない。

一般機器製造業

49. <北海道 金属工作機械 >
 銅合金やアルミ材など原材料の価格が上昇している。コロナの感染状況は、全国ニュースで北海道全域で感染が拡大している旨の報道がなされ、他県からの受注がゼロとなっている。

50. < 栃 木 県 一般機械器具製造業 >
前年同月と比較し、売上高は同等の水準であり、収益悪化懸念もあるが、各企業の経営努力により悪化回避を行っており、回復傾向の企業と悪化懸念の企業とがほぼ同数である。
51. < 埼 玉 県 一般機械機器製造業 >
売上が増加した組合員も一部いるが、コロナ感染拡大等から引続き景気停滞が懸念される。韓国から原材料を輸入している組合員は、税関の通過に時間を要し、生産に一部支障が発生した。
52. < 石 川 県 機械金属、機械器具 >
前年同月が新型コロナの影響で低かったこともあり、前月に続き売上高は大幅増加となる見込みである。5月は主取引先の生産調整はあるが、6月以降継続して、増産は続く見込みである。
53. < 愛 知 県 めっき >
自動車関係は、前年同月比で売上が減少した企業は10%程度であり、好調である。半導体不足による生産調整が懸念材料である。
54. < 愛 媛 県 鉄工 >
売上は前年比増加しているが、鋼材等の原材料の値上がり止まらない状況である。また、円安や原油高がこのまま続けば収益状況が悪化し資金繰りにも影響が出てくる。

電気機器製造業

55. < 山 梨 県 電気機械器具製造業 >
半導体関連は好調である。前年度は半導体以外の医療・電気関連の受注が好調であったが、今年は低調である。
56. < 長 野 県 電子機械器具製造業 >
業種間のバラツキが発生している。全体的に製造業は回復傾向で、特に減速器ロボット関連受注が大幅増となっている。
57. < 静 岡 県 電気機械器具製造業 >
半導体不足の影響が拡大しており、生産計画への影響が大きくなってきている。
58. < 愛 知 県 配電盤 >
新型コロナウイルスの影響で飲食業界の出店が少なくなっている影響が出始めている。また、原材料価格が不況にも関わらず上昇しているため、利益を圧迫し始めており、危惧している。
59. < 三 重 県 電気機械器具製造業 >
受発注の激減（約40%ダウン）の影響で、非常に厳しい状況にある。また、使用材料（鉄鋼SUS）の品不足から、仕入価格が25～30%上昇しており、状況は非常に悪化している。
60. < 広 島 県 電気機械器具 >
5月の売上は、前月比「変化無し」、前年同月比「5%増加」となった。半導体製造装置及びロボット関係が堅調に推移している。

輸送用機器製造業

61. < 茨 城 県 県北地区自動車部品 >
一部で半導体供給不足が生じている。生産高はやや上向きにあるが、まだ水面下の状況である。
62. < 群 馬 県 自動車・同附属品製造業 >
5月は多くの自動車メーカーで生産停止となり、受注が落ち込んだ。生産停止は来月も続く見込みであり、先行き不透明感が増している。
63. < 静 岡 県 輸送用機械器具製造業 >
前月に続き、鉄スクラップ価格が10数年ぶりに5倍程高値となっている。スクラップ引取価格が上昇し、当組合としては良い傾向であるが、今後時間差で鉄材価格が高騰してくると予想される。
64. < 三 重 県 鈴鹿 >
半導体不足により休業の自動車メーカーがある中、大幅な生産調整が必要になった。一方、国内外で船外機の需要が急激に高まっており、下期の生産計画で通常の1.3倍の増産要請があった。
65. < 広 島 県 輸送用機械器具（造船） >
県内2500総トン以上の4月の船舶建造許可実績は2隻（国内船（油槽船）、輸出船（貨物船）各1隻）、10,300総トンであった（前月3隻283,200総トン、前年同月4隻105,940総トン）。
66. < 大 分 県 造船 >
コロナの影響で元請（本社）の営業活動が出来ず、船の受注が出来ない。よって建造ペースを延ばしている状況で、人員削減が発生してきている。工程を延ばして来年いっぱいの仕事量は確保できたようだ。

その他の製造業

67. <東京都 靴製造業 >
緊急事態宣言の延長を受けて、市場の活性化が遅れることへの不安が大きくなっている。昨年のセーフティネットの借入金返済が始まった事業者もあり、資金繰りが相当厳しそうである。
68. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
世界的に設備投資の抑制傾向が続いてきたものの、工作機械受注額が増加傾向にある。国内、海外向け共に前年比増。半導体関連の動きが活発化し上向き見込みが持てる。
69. <愛知県 アウトソーシング >
国内自動車販売数が回復し、特に新型車種の生産ラインは多忙となっている。但し、他の地域においては半導体不足による生産調整が行われ、東海地区においても懸念される。
70. <兵庫県 その他製造業 >
2回目の緊急事態宣言に入り、定番の受注がストップした。2~3月は靴業界は、繁忙期なので比較的仕事はある。しかし、例年に比べ、数量の減少、受注単価の低下など厳しい状況である。
71. <奈良県 毛皮革 >
最近は大規模メーカーの発注が遅くなってきており、本格的に動き始めるのは夏前になった。原皮確保が課題の鹿革については、国内で原皮の安定調達を模索中である。
72. <高知県 装飾品・同関連品製造業 >
5月の取引額は前年同月比101%となった。しかし、コロナ禍前の前々年と比べると40%であり、回復の兆しが見られない。末端の消費者による購買力が低調である。

《非製造業》

卸売業

73. <福島県 再生資源 >
古紙市況は需要がやや好転するも、市況は前月同様低調。鉄スクラップ・非鉄相場は前月に引き続き高値で推移している。
74. <千葉県 総合卸売 >
既往先の売上減少を新規開拓等で入替を行いながら、昨年並みの売上を確保している状況。また、追加のコロナ資金借入を検討するも、金額面で前回同様の借入ができない組合員もいる模様。
75. <東京都 食肉卸売業 >
海外輸出が堅調で、和牛枝肉相場5等級は弱含みだが、3、4等級及び巣ごもり需要による小売や量販店の需要が見込まれる交雑・乳牛は堅調に推移している。
76. <愛知県 水産物 >
生鮮食品の売上高は、前年同月の巣ごもり需要の反動で水産加工は苦戦した。一方、気温の上昇や家飲み需要の増加により総菜は大きく伸長した。
77. <広島県 卸売業（電設資材） >
3月の新築住宅着工は前年比1.1%減少、持家は12.0%減少したが、分譲が5.6%増加した。建築資材不足による価格高騰が続いており、今後の懸念材料である。
78. <熊本県 各種商品卸売業 >
建設、建設資材卸、電設資材卸など建設関連企業の売上は昨年同期とほぼ同じであるが、鉄骨の値上がりにより収益に影響が出始め、長期の大型工事の受注見積が難しくなっている。

小売業

79. <山形県 電気機械器具小売業 >
昨年に引き続き5月からエアコンの需要が出てきているが、銅の価格高騰でエアコンの部材や配管パイプが値上がりしており、工事自体の価格へも反映せざるを得ない状況である。
80. <茨城県 中古自動車 >
販売台数は前年同月比で83.2%と4月に続き大きく落ち込んだが、販売価格が110.3%と大幅に上昇したため、売上高は91.8%と1桁台の減少に抑えられた。
81. <東京都 電化製品小売業 >
エアコンは売れているものの、暑さにより爆発的に売れた昨年ほどではない。冷蔵庫は堅調に動いてはいるものの、店主やお客様の高齢化が進み、比較的安い2Kテレビが主流になっている。
82. <岐阜県 家電機器販売 >
景況は悪化している。昨年支給された特別定額給付金が本年はないことや、飲食・宿泊業等の休業や時短営業で売上が激減している。高齢化や後継者不足で組合員の減少が続いている。
83. <三重県 電器 >
5月は長引くコロナ禍の影響で売上は前年比大きくダウンした。昨年は特別定額給付金の効果もあり、買替需要が需要を牽引したが、5月は特需のマイナス要素が顕著に現れた。
84. <宮崎県 小売商業 >
当月は、集客数が前年比10%、売上が5%減にて推移した。今年は第四波の状況下、県独自の緊急事態宣言が出され、前年をさらに下回る厳しい状況であった。

商店街

85. <秋田県 商店街 >
全体的にコロナ禍の影響を受けて、売上・収益が減少している。また、食品関係では、輸入品の品不足や価格の高騰により原価上昇がみられる。
86. <福島県 商店街 >
新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向であるが、夏までの県内イベントやお祭りが中止、規模縮小或いは無観客が続くなど未だ不安感があり、好転の見込みが見えない状況である。
87. <東京都 商店街 >
まん延防止等重点措置並びに3回目の緊急事態宣言発出により、飲食業界、ホテル、旅館及びインバウンドが主力顧客である当商店街は、空き店舗も目立ち、非常に厳しい状況が続いている。
88. <京都府 商店街 >
再度の緊急事態宣言の延長により、持ちこたえられない業者が出始めている。特に、家賃が重い負担となっている。会合も中止やオンラインとなり、組織の存在や運営に暗雲が立ち込めている。

89. <山 口 県 商店街 >
 当地区にも新型コロナウイルス感染が広まっている為、食料品関係は持ち直しているが、商店街全体としては来客数が激減している。今年度夏のイベントも殆どが中止となっている状況である。
90. <沖 縄 県 商店街 >
 通常時（コロナ前）と比較して開店・客足ともに1割程度の状況である。国際通り入口の店舗が、コロナの影響で18年間の営業に幕を閉じた。

サービス業

91. <宮 城 県 ホテル旅館 >
 前月に引き続き厳しい状況が継続しており、新型コロナウイルス終息後の県による宿泊支援策に大きく期待している。
92. <茨 城 県 自動車整備 >
 組合員事業場の車両在庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車が106.6%、軽自動車は107.3%となり、普通車・軽自動車ともに増加となった。
93. <神 奈 川 県 医療業 >
 コロナ受入病院では、入院患者数、給食数が減少しているが、収益面では、コロナ補助金を受け、資金繰り含め安定している。診療所、特に小児科、耳鼻咽喉科は患者が戻らず苦戦している。
94. <静 岡 県 宿泊業 >
 昨年5月は緊急事態宣言下であり、ゴールデンウィークを挟み殆どの宿泊施設が休業であった為、対前年比では大幅にプラスの収益状況となったが、一昨年と比較すると5割程度の状況である。
95. <香 川 県 美容 >
 新型コロナウイルスの感染拡大が美容業において不要不急の外出や移動の自粛などによる来店頻度の減少、客単価の低減など経営に大きな影響を与えている厳しい状況が続いている。
96. <長 崎 県 飲食業 >
 前年同月比、売上が5倍以上増加したが、前々年比では90%の状況(修学旅行が全てなくなったため)。1年中のピークの時期であり、減少率もだが実額でのマイナスが大きく、資金繰りが厳しい。

建設業

97. <北 海 道 電気工事 >
 公共工事の発注物件は未だ少ない状況。民間工事に関して、発注元との間に何社も企業が入った中での受注となることが多く、価格や工程管理など対応できる組織や人材を作る必要がある。
98. <福 島 県 設備工事 >
 今月は売上に大きな変化は見られなかったが、徐々に陰りが見え始めている。材料仕入、出庫ともに公共物件の割合が高くなってきている。また、人材確保は変わらず苦戦している。
99. <長 野 県 職別工事業 >
 鋼材・副資材の値上げが凄まじく、利益を圧迫している。企業間による仕事の二極化は変わらない状況である。
100. <京 都 府 職別工事業 >
 まだまだ終息への見通しが立たないまま、建設業界ではウッドショックの影響も出始めた。輸入木材の価格が5倍にもなる高騰の影響を受け、5月以降の工事が先の見えない状況となっている。
101. <愛 媛 県 基礎工事 >
 鉄筋価格の上昇が利益を圧迫してきている。材料高騰分を価格転嫁したいが、ビルダーも木材高騰の影響が大きくなかなか交渉に応じてもらえない状況である。
102. <福 岡 県 床・内装工事業 >
 住宅関連はさほど落ち込みは無いが、飲食を中心とした商業店舗の新築やリニューアル案件が大きく落ち込んでいる。特に緊急事態宣言下では飲食関連の仕事量が非常に厳しい。

運輸業

103. <群 馬 県 一般貨物自動車運送業 >
 燃料価格が上がり、収益の圧迫を懸念している。家電用プラスチック原料、輸出関連商品の荷動きに回復が見られるも、飲料水は低調で推移している。また、運賃相場も下落傾向にある。
104. <長 野 県 道路旅客運送業 >
 景気は前年同月よりはやや上回った。但し、前年同月が最悪な状況であったことから好転とは言えない。燃油価格が前月比102.6%と上昇しており経営を圧迫している。
105. <静 岡 県 道路貨物運送業 >
 各地に発出された緊急事態宣言やまん延防止措置の影響で、5月の連休明けは荷物情報が減少を続け、空車車両が増加した。これにより運賃相場も下落傾向となっている。

106. < 兵庫県 道路貨物運送業 >
取引高が前年同月比において減少している。宅配など極めて好調な業者もあるが、多くの業者は厳しい状況が続いている。さらに軽油価格の上昇が追い打ちをかけている。
107. < 徳島県 貨物運送業 >
新型コロナの影響は少しずつ改善の方向に向かっているが、取扱業種によっては、飲食関連のビール等はいまだに低迷、自動車部品関係は復調方向にある等、ばらつきが出ている。
108. < 熊本県 一般貨物自動車運送業 >
5月の荷動きは悪く、今のところ良い材料が全くない。関東関西から荷物は激減し、帰り荷の確保に苦戦している。燃料の高騰も打撃である。

その他の非製造業

109. < 千葉県 輸出入 >
コロナウイルスの影響が続いて、店舗休業が続いている。
110. < 神奈川県 歯科技工 >
前年同月は新型コロナウイルスの影響により、経営は悪化していたが、今月はワクチン接種が徐々に開始され、売上は回復傾向になってきた。
111. < 新潟県 砂利採取業 >
令和3年5月度の骨材生産量は前年同月比100.7%、令和3年1月～5月累計は前年度比91.9%であり、コロナ禍の影響による設備投資等の動向を注視中である。
112. < 岡山県 信用組合 >
取引先である飲食店を中心に、急減に業況が悪化している。引き続き特別融資にて支援を続けるとともに、支援金手続きや、再構築補助金のコンサル業務も力を入れ、本業支援を図っている。
113. < 広島県 不動産業 >
5月は固定資産路線価業務等の影響で、前月比売上高が増加、収益も好転している。但し、前年同月比では固定資産標準宅地評価報酬の入金がない分売上高が減少し、収益も悪化している。
114. < 福岡県 貸金業等 >
新規貸付は皆無に近く、社会全体の消費と人の動きが戻らない限り、ギリ貧状態が続くと思われる。